

東武鉄道と東武グループの 主な出来事

MAJOR EVENTS OF TOBU RAILWAY
AND THE TOBU GROUP

3月28日
伊勢崎線北千住～北越谷間
(18.9km)の複々線化完了

3月19日
伊勢崎線・日光線、営団地下鉄(現・東京メトロ)半蔵門線、
東急田園都市線(南栗橋～押上～渋谷～中央林間間)で
相互直通運転を開始

相互直通運転とTJライナー

東武鉄道は、他社線との乗り入れにより
都市型鉄道としてネットワークを拡大し
てきた。伊勢崎線においては東京メトロ
日比谷線や半蔵門線、東上線においては
東京メトロ有楽町線や副都心線との乗り
入れによって都心へのアクセスを向上さ
せた。(→詳しくは40ページ参照)



9月30日
貨物列車の廃止
(→詳しくは98ページ参照)

3月18日
JR新宿～東武日光・鬼怒川温泉間で、
JR東日本と特急列車の相互直通運転を開始

JR相互直通特急とAIZUマウントエクスプレス
かつて都心と日光を結ぶルートめぐっては、東武鉄道と旧
国鉄がライバル関係にあり、旅客の誘致を競っていた。そん
な両社が手を結んで直通列車を走らせたことは、大きな驚き
をもって迎えられた。(→詳しくは50ページ参照)

3月31日
新タワー(東京スカイツリー)の建設地が墨田・台東
エリア(押上・業平橋地区)に決定(→詳しくは58ページ参照)



建設地決定共同記者会見の様子
(左から)鈴木専務、山崎墨田区長、吉住台東区長

8月1日
8月1日を「安全の日」に定める(→詳しくは46ページ参照)

6月14日
東上線、東京メトロ副都心線
(森林公園～和光市～渋谷間)で
相互直通運転を開始、
TJライナーの運行開始
(→詳しくは40ページ参照)

7月14日
業平橋押上地区開発計画
(新タワー計画)が着工
(→詳しくは58ページ参照)

5月22日
東京スカイツリータウン
グランドオープン

東京スカイツリータウンと Rising East Project

東京スカイツリータウンは、日本の一大
観光名所として、世界的な知名度が定
着した。建設地決定から数々の苦難を
乗り越えて開業した東京スカイツリー
タウンの秘話や、東京イーストエア
の拠点づくりに向けた施策を紹介する。
(→詳しくは58ページ参照)



©TOKYO-SKYTREETOWN

11月1日
東武鉄道
創立100周年

2001

2003

2006

2008

2012

1999

6月29日
根津嘉澄が
代表取締役社長に就任
(→詳しくは34ページ参照)

2002

1月23日
「東武グループ
再構築プラン」を策定

根津嘉澄社長就任と 東武グループ再構築プラン

東武グループが厳しい経営環境に直
面する中、就任した根津嘉澄社長が
まず取り掛かったのが「東武グル
ープ再構築プラン」だ。負の資産を処
理して反転攻勢に出るための施策だ
った。(→詳しくは34ページ参照)



再構築プランを報じる社内報

2005

3月1日
「AIZUマウント
エクスプレス」が
鬼怒川温泉～会津若松
(一部、喜多方)間で
直通運転を開始
(→詳しくは50ページ参照)



3月15日
竹ノ塚踏切事故発生

竹ノ塚踏切事故と安全対策

竹ノ塚踏切事故は、「安全・安心」とは何かを東武鉄道が
根本的に考え直す契機となった。事故後、原因を徹底
的に究明し、安全管理体制の再構築と意識の変革を全
社一丸となって徹底した。(→詳しくは46ページ参照)



8月1日
安全推進部を新設(→詳しくは46ページ参照)

2007

9月20日
「エキア(EQUIA)」ブランド第1号となる
「エキア川越」がオープン

エキアブランドの浸透

駅ナカや駅ビルのあり方を見直し、駅ビジネ
スをより一層強化した。その象徴となるのが
2007年に誕生した駅ナカ商業施設「EQUIA
(エキア)」だ。(→詳しくは54ページ参照)

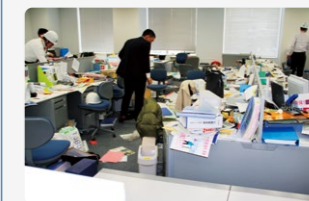


2011

3月11日
東日本大震災(東北地方太平洋沖地震)発生

東日本大震災

東北・関東地方を中心に、未曾有の被害をもたら
した東日本大震災。混乱の中でも東武グループ各
社では、それぞれが役割を全うし、一丸となって
難局を乗り越えた。(→詳しくは70ページ参照)



3月16日

東上線、東急東横線、横浜高速鉄道みなとみらい線(森林公園～和光市～渋谷～横浜～元町・中華街間)と相互直通運転を開始(→詳しくは40ページ参照)

8月30日

東武鉄道がトップツアーを連結子会社化(→詳しくは94ページ参照)

10月21日

分譲住宅ブランド「Solaie(ソライエ)」の第1号物件となる「ソライエ草加松原」が竣工

ソライエブランドの勃興

東武鉄道は沿線への人口流入を促すため、大規模分譲マンション開発によるまちづくりと郊外のまちづくりを進めている。(→詳しくは74ページ参照)



2013

2015

4月1日

トップツアーと東武トラベルが合併し東武トップツアーズ誕生

東武トップツアーズの誕生と東武ストアの完全子会社化

トップツアーと東武トラベルの経営統合と、2018年10月の東武ストアの完全子会社化は、いずれも大きな経営判断だった。(→詳しくは94ページ参照)



12月18日

台湾鐵路管理局と友好鉄道協定を締結

台鉄との連携とインバウンド戦略

東武鉄道は台北支社を設置して台湾からの旅行者の誘致を図るとともに、グループ全体で台湾との友好関係を深めていった。(→詳しくは78ページ参照)



2016

9月30日

東武鉄道が金谷ホテルを連結子会社化(→詳しくは82ページ参照)

10月7日

台湾に台北支社を開設(→詳しくは78ページ参照)

10月16日

関越交通が「客貨混載」を開始

貨物列車の廃止と客貨混載

東武鉄道は貨物輸送を2003年に終了したが、近年は新たな輸送サービスを展開している。その動きはグループ会社でも行われ、地方の交通手段維持やフードロス削減といった社会課題解決の一助となっている。(→詳しくは98ページ参照)



客貨混載バス

10月25日

東武鉄道が東武ストアを完全子会社化(→詳しくは94ページ参照)

2018

2017

8月10日

鬼怒川線下今市～鬼怒川温泉間においてSL大樹運転開始

SL復活運転

SL運転の復活は、「鉄道産業文化遺産の保存と活用」、「日光・鬼怒川エリアの観光活力創出による地域活性化」、「東日本大震災後の東北復興支援の一助」を担う。(→詳しくは88ページ参照)



令和

2020

4月7日

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い緊急事態宣言が発出される

コロナ禍の対応とTOBU POINTの開始

新型コロナウイルス感染症による行動制限で、東武鉄道は大きな打撃を受けた。使命感と創意工夫で乗り越えた軌跡を追う。そして、時代の先を読んだ新たな一手「TOBU POINT(トボポ)」の戦略に迫る。(→詳しくは102ページ参照)



6月18日

浅草～東京スカイツリータウン間に「東京ミズマチ」がオープン、「すみだリバーウォーク」が開通(→詳しくは58ページ参照)

7月15日

「ザ・リッツ・カールトン日光」がオープン

ザ・リッツ・カールトン日光と新たな日光観光戦略

東武鉄道は日光エリアの活性化に注力してきた。年間約1,000万人が訪れる世界的観光地に成長したこの地を国際エコリゾートとして醸成させるため、地域と共に様々な施策を展開する。(→詳しくは82ページ参照)



11月1日

東武グループ共通ポイントサービス「TOBU POINT(トボポ)」を開始(→詳しくは102ページ参照)

8月2日

フードロス削減の取り組みTABETEレスキュー運用開始(社会貢献・地域活性化を目的とした特定の企業・団体向け有料手回り品料金制度を導入)(→詳しくは98ページ参照)

10月28日

国内初の環境配慮型・観光MaaS「NIKKO MaaS」のサービスを開始(→詳しくは82ページ参照)

2021

3月20日

東武スカイツリーライン竹ノ塚駅付近(西新井～谷塚間)を高架化(→詳しくは46ページ参照)

11月1日

東武鉄道 創立125周年

2022

3月18日

東上線、東急新横浜線、相鉄線(小川町～和光市～渋谷～日吉～新横浜～海老名、湘南台間)と直通運転を開始(→詳しくは40ページ参照)

3月27日

東武グループのショッピングサイト「TOBU MALL」をオープン(→詳しくは102ページ参照)

6月23日

都筑 豊が代表取締役社長に就任



7月15日

N100系「スペース X」が就役(→詳しくは82ページ参照)

2023